

令和4年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立鈴西小学校			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
「知」と「徳」と「体」のバランスの取れた子どもの育成	<p>1 全国学力調査やみえスタの結果分析を授業改善に活用する。</p> <p>2 学期1回、家庭学習強化週間を設け、家庭学習の充実を図る。</p> <p>3 朝の15分学習を補充学習として計画的に、異学年でのグループ学習「まなびっこタイム」を実施し、知・徳・体の育成を計画的に行っていく。</p> <p>4 読書活動を充実させ、本の貸出し冊数を1人当たり50冊以上を目指す。</p> <p>5 ボランティアを募集し、できる範囲でボランティアの要請をしていく。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>1 全国学力調査やみえスタの採点を教員が行い、校内研修会において結果を分析し、授業改善の方法を議論・検討した。また授業改善については、互いの授業を公開して見合い、改善点について意見交換をする「授業力UP週間」を実施した。</p> <p>2 家庭学習強化週間の振り返りアンケートでは62.1%の児童が各家庭で決めた時間、学習に取り組むことができた。ただ、児童アンケートの「宿題をしているか」の結果では、95.8%であったが「予習復習をしている」の結果は64.1%と強化週間と同じであった。このことから今後は強化週間で70%の児童が取り組むことを目標に学校と家庭・地域で取り組んでいきたい。</p> <p>3 3年生以上では、週3回朝の15分間の学習時間に、計算を中心に復習や反復学習に取り組んだ。短時間で取り組むことで児童は集中して取り組むことができた。</p> <p>また、どの学年も毎日の朝の15分間の学習時間を活用し、国語科や他教科の学習、たてわり班学習(異学年でのグループ学習「学びこタイム」)を計画的に行い、互いに教えあふことと探究(サーキット)学習等を通して学習意欲の向上やICT機器の基本操作の習得、基礎学力の定着を図ることができた。2学期からは、教育指導課が作成した「読む・書く・ワークシート」を活用し、基礎学力のさらなる向上に取り組んでいる。</p> <p>4 巡回図書館指導員とも連携を図りながら、学校図書館の環境の充実を進めた。各学年、年間2回以上は指導員による図書の授業を計画し、実践した。また、集会で各学年のすずめをすべして読んだ児童の表彰や、本の貸出しが多かったクラスを紹介するなどで、読書への意欲づけを行った。</p> <p>課題として、保護者アンケートの「読書習慣の大切さを指導しているか」が80%以上の肯定的な回答があったが、昨年度より約8ポイントのダウンとなった。学校での取り組みをもとと伝えていくこと、情報提供についても工夫が必要である。</p> <p>5 様々な行事ではPTAの方々を中心に、のべ287名の協力を得ることができた。今後はコロナの状況にもよるが、学習ボランティアの要請を増やしていきたい。</p>	<p>・ 学校の様々な努力については感謝してほしい。</p> <p>・ 分析し、弱みを改善し、学力アップにつなげてほしい。また、授業の公開と改善点の意見交換は有益なので続けてほしい。</p> <p>・ 一つの数値的目標と学調やみえスタの結果にこだわるのはわかるが、この項目の指標は子どもにかけたい力にすべきではないか。</p> <p>・ 教師が鈴西の子どもにつけさせたい力を共有し、それを意識して授業に取り組んでいるか。自身での振り返りを大切に。</p> <p>・ 落ち着いた鈴西小でこそ教師の力を伸ばすことが可能である。頑張っしてほしい。</p> <p>・ 学習については個々で取り組むという形の学習ももちろん大切である。それとともにグループで課題に取り組むというスタイルもいれてはどうか。協力することや学習の達成感がより得られるのではないかと。</p> <p>・ 今の子どもたちは、「与えられる」という環境に慣れ、自発的に取り組むということが苦手である。子どもたちが自発的に取り組み、興味をもつ課題づくりが大切である。</p> <p>・ 6月の研究発表会で授業を参観して、グループでの取り組みを見て、子ども同士のかかわり、子どもと先生のかかわりが素晴らしい課題に取り組む姿勢が良かった。</p> <p>・ 縦割り班活動で先生方が他学年の子どもにも目が行くことはいいことだと思う。</p> <p>・ 発想力等を豊かにするには読書が一番。子どもたちに読書の必要性を教え、習慣づけてほしい。</p> <p>・ 巡回指導員さんと有効に活用し読書活動の大切さ、面白さを上手く伝えてくれるのでは。また、読書の定着により読解力、文章を書く力等学力の向上につながっていく。</p> <p>・ 読書活動については、読書の楽しさを伝えること満足感(面白い、新たな発見等)を感じてもらえればと思う。貸出冊数の150冊というのでは高学年には難しいので、中、高学年別に設定してはどうか。</p> <p>・ 朝学習や学びこタイムは継続して取り組んでほしい。</p>	<p>1 これまで同様に、学力調査、みえスタディチェックについては全ての教員で採点、校内研修での分析、授業改善に取り組む。</p> <p>2 縦割り学習同様、学年の授業においても小グループを活用し、対話の重視とつながりを生み出す授業を目指す。</p> <p>・ 授業改善の検証を図るため、「授業力UP週間」の実施(年2回を目指す)</p> <p>2 家庭学習強化週間を効果的に活用するとともに、宿題(家庭での学習等)の内容等について考えていく。</p> <p>3 縦割り学習は今後も継続し、より対話を生み出す課題についても考えていく。</p> <p>・ 朝の15分学習を継続して取り組んでいく。</p> <p>4 貸出冊数の目標値を一律同じではなく、低、中、高もしくは低、高で分けて目標値を設定する。</p> <p>・ 巡回指導員さんのさらなる有効活用。</p> <p>・ 読書記録カードの継続。</p> <p>・ 教師側からの読書の大切さや面白さを伝えていくとともに子どもたち(委員会)が主体となった呼びかけイベントの実施。</p> <p>・ 読書以前に、活字に慣れさせることも踏まえ、指導課のワークシートの取り組みや教室での掲示物(タイムリーな新聞記事等)など活字に慣れさせる工夫に取り組む。</p> <p>5 必要なニーズを把握し、様々な分野でのボランティアの協力を積極的に要請していく。</p>
	生徒指導 子どもも理解 安全確保	<p>1 あいさつ運動を実施し、90%以上の児童が自分から元気な声であいさつできる。</p> <p>2 いじめゼロを目指すとともに、いじめアンケートを年3回実施し、即日対応を行う。</p> <p>3 障がいのある人への理解を深める授業を行い、安心できるクラスづくりを推進する。</p> <p>4 子ども理解会議(年間10回)と校内支援会議(年間30回以上)の充実を図る。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>1 児童アンケートでは96.4%、保護者アンケートでは94.3%が肯定的な回答であった。ただ、「自分から」ということについては課題である捉えている。</p> <p>2 1・2学期のいじめアンケートでは、いじめを受けたものと回答した件数が24件。内容としてはいかめしや嫌なことを言われることが主なものであった。担任、生徒指導担当を中心に早期の解決を図った。今後もアンケートをはじめ、教師側の見守りや児童とのより良い関係を築き、早期発見に努める。</p> <p>3 道徳、総合の授業で障がいのある人への理解を深める授業を実施した。また、毎日の生活(クラス内、たてわり学習等)を通してより良い関係づくりができていく。</p> <p>4 毎月の職員会議の最後に、各学年より気になる児童やクラスの様子について、報告し情報共有を図った。また、特に気になる事案については、関係する職員で話し合いの時間を取り、共通理解を図った。特別支援学級の児童を中心に、年度初めと各学期の終わりに支援ファイルについて必要に応じて担任や特別支援コーディネーターと保護者との話し合いの場をもち、児童の適切な支援について共通理解を図った。</p> <p>課題としては、学校は児童の共通理解を図り指導を行ってきたが、保護者アンケートの「自分のことに自信が持てるよう指導に工夫をしているか」では87%の肯定的な回答があったが昨年度より4ポイント以上のダウンであった。今後は指導や日々の係わりでの言葉かけ等にさらなる改善が必要と考える。</p>	<p>・ コロナで人間関係が希薄になっているが、子どもたちはマスクで表情も見えない。先生方の苦勞は大変と思うが、些細な変化を見逃さず子どもたちに関わってほしい。</p> <p>・ いじめの早期発見と毎日の見守り等いじめが起きない環境づくりをお願いする。</p> <p>・ いじめの発見はむずかしいですが、先生と子どもの信頼感を日々築いてほしい。</p> <p>・ いじめについては早期に発見し、大きな問題になる前に組織的な対応に努めてほしい。</p> <p>・ 道端でもあいさつができることはいいと思う。</p> <p>・ 町内でも学校の登下校でかたまりの子どもが多いさつてくれる。</p> <p>・ 多くの子どもがころからあいさつをすれば返してくれる。さらに自分から率先してできるようにしてほしい。</p> <p>・ あいさつが自分からできない子どもの中には、はずかしいという気持ちもあるのではと思う。会釈を返してくれるだけでも嬉しいと思う。まずは大人から積極的にあいさつすれば、学校も地域も家庭もあいさつで溢れる環境をつくることで解消されるのでは。</p> <p>・ 気になる子どもの情報共有をすることはいいことなので継続して取り組んでほしい。</p> <p>・ いろいろなことで保護者と本音で話せるといいのですが…。</p> <p>・ 自尊心が低いのは子どもばかりでなく保護者もそうではないか。日常生活での些細な発見でもいいので子どもたちのがんばっているところを通信などで情報発信していけばどうか。</p>
地域と共にある学校づくりの推進	<p>1 コロナ禍においても感染症対策を十分取り、できる範囲で学校公開を行う。</p> <p>2 学校だよりやPTA会議等で、積極的な情報発信を行う。</p> <p>3 地域・外部人材の活用と社会に開かれた教育課程の実現を進める。</p> <p>4 保護者・地域と連携した安全・安心の取組として、「ながら」見守りを進める。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>1 感染症対策に努め、分散での授業参観や運動会、マラソン大会は制限なく見えたことができた。しかし、森のまつりはコロナ感染者の増加時期であったので、保護者や地域の方々に参加しただけができた。</p> <p>2 学校だよりを12月末現在で21号発行した。また、発行したよりはホームページにも掲載した。また、ホームページでは学校運営協議会の報告も掲載している。</p> <p>3 4～6年生のたてわり班で地域教育のお茶についての探求学習や2・3年生のまちたんけん、5年生の福作体験、1・2年生の生活科の授業では、地域の方々の協力をいただくことができた。外部人材としては、租税教室(6年)、弁護士によるいじめ防止授業(5・6年)、スマホ講座(4～6年)、環境に関する授業(3～6年)等様々な取り組みをすることができた。</p> <p>4 地区市民センター等を通して地域の方々「ながら」見守りに登録していただき、子どもの見守り活動をお手伝いいただいた。特に今年度は全国的な不審メールが送られることもありその都度、保護者、地域の方々の協力により安心・安全な登下校ができた。</p>	<p>・ PTA以外のボランティアをコロナ以前に戻すことはかなりの努力を要すると思う。</p> <p>・ 学校と地域の連携と協力、親近感を増やすために具体的な取り組みをする必要があると思う。以前より学校が地域住民から遠くなったと思う。</p> <p>・ コロナでなかなか行事が思う存分できないが、次年度に向けて子どもが満足するような楽しめる行事をやりたいですね。</p> <p>・ ボランティアが必要な時だけでいいから呼んでもらえれば協力は惜しまないでいただきたい。</p> <p>・ 長い間コロナで活動できなかったのが、徐々にいいのでボランティアの活動を増やしてほしい。</p> <p>・ PTAや地域ボランティアの活動を更に活用してもらいたい。</p> <p>・ 児童の積極的な活動の様子がよくわかる通信をありがとうございます。特に高学年の児童の積極性は学校が取り組んでいる縦割り活動の成果ではないかと、縦割り活動から生まれる高学年としての自覚がどんどん増してくるのでは。これからは児童の様子や学校の様子がわかる通信の発行をお願いしたい。</p>	<p>1 できる限り学校公開を行い、子どもの様子がえられる機会を増やしていく。</p> <p>2 通信では、行事や業務連絡だけでなく、子どもたちのがんばっていることや日常生活での良かったことなどを積極的に保護者に伝えていく。また、読書につながるような活字になれるように子どもが興味をもつような記事も掲載できればいい。</p> <p>3 地域や外部の人材活用した授業を行う。これらの授業は、講師先生との出会いによる、キャリア教育の要素もあり、将来の夢や展望を持つことにつながるので、積極的に実施していく。</p> <p>4 今後も市民センター等を通じて「ながら」見守りボランティアを知らせ、多くの方に登録いただけるよう地域に伝えていきたい。</p>
教職員の働き方改革	<p>1 抜本的な業務縮減として、学校行事の縮減と業務の平準化を行う。</p> <p>2 ICTを活用した業務改善(出席簿管理、通知表、指導要録、アンケート等)を行う。</p> <p>3 QOLの向上のため職員が「MY定時退校日」を設定し、月に1人当たり2回以上定時退校した職員の割合85%以上を目指す。</p> <p>4 支援ボランティア、外部人材の活用により、時間外月45時間以内を目指す。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>1 学校行事については、このコロナ禍の状況の中、実施方法の工夫により縮減を図ることができた。また、業務の平準化については、二数年で進んだが、教員アンケートからまだまだ改善の余地があると考えられる。</p> <p>2 ICTの活用によりかなり業務改善が進んだ。今年度は児童アンケートもパソコンを使って行うことにより業務改善は進めることができた。しかし、保護者アンケートについては、全保護者からの回答を得ることができなかったのが今後の検討課題である。</p> <p>3 これについては、99%達成できた。多くの学校が定時退校日を一律で設定しているが本校では各個人で設定する「MY定時退校日」としている。自分の帰りがしやすい日に設定するのでこの達成率につながっていると考えられる。</p> <p>4 今年度は12月末で45時間以内に取り収めた。これには、スクールサポートスタッフという外部人材により、印刷や掲示物の作成等の業務を担ってくれて時間外も昨年以上に縮減できた。この生み出したゆとり時間を、子どもへの支援や家庭との連絡に充てより関係者を養子子どもたちへ還元していきたい。</p> <p>4月から時間外月45時間を超えた職員はなし(昨年はのべ4人)。時間外労働時間は月平均で19.2時間(昨年は20.6時間)。</p> <p>今後も業務の分担の見直しや改善を図るなどのマネジメントをし、職場のよりよい関係づくりに尽力し、さらなる時間外労働の縮減を目指していきたい。</p>	<p>・ ICTのさらなる活用を見出しついでに、</p> <p>・ スクールサポートスタッフの活用により、時間外勤務が縮減したことは教員のゆとりを生み出した。このことが子どもたちにきめ細やかな教育をもたらしことを期待したい。</p> <p>・ 定時退校日を各個人で設定するのはいいことだと思う。</p> <p>・ 教師の(余裕)が子どもへ返っていく(授業研究や子どもとの丁寧なかわり等)ことを願う。</p> <p>・ 業務の平準化は難しいですね。せめて授業時間数が軽減できるような教育委員会に人的配置をお願いしたい。</p> <p>・ 先生やPTAだけでなく、子どもたちの要望や成長を第一に考えて行事等の取捨選択してほしい。</p> <p>・ コロナ禍による学校行事の縮減は評価するが、運動会、森のまつり、卒業式等地域とのつながりが希薄にならないよう工夫してほしい。</p> <p>・ 職員の方々には大変お忙しいなか学校行事に取り組んでいただき、感謝しております。ただ、縮減ばかりが先行して子どもたちの満足度が下がらないよう願っています。</p> <p>・ 行事を縮減した、時間外労働が減少した。これらについては先生方にとってのものである。教師のゆとりが生まれたことで子どもたちや地域家庭にどのようなメリットがあったのかも今後は教えてほしい。</p>	<p>1 行事については、コロナの五類に伴い、慎重に見直しを図ってほしい。また、業務の平準化についてもこの年度末に、次年度へ向けた会議の中でできる限り努めてほしい。</p> <p>2 ICT機器の研修を深め、さらなる業務改善につながる機能を取り入れてほしい。</p> <p>3 これまで同様に、一律で定時退校日を設定せず、個人で設定することを継続して行う。</p> <p>4 スクールサポートスタッフの有効活用は継続する。今後は、外部人材の活用によってどのように働き方改革につなげるか、有効な活用方法を見出してほしい。</p> <p>○1～4については次年度も継続して取り組む。次年度は、働き方改革が進んだことにより生み出された時間によって、子どもたちにどのようなメリットをもたらされたかの検証していきたい。</p>